

平成24年度 第3回平田地域協議会 会議録（要約）

1. 日 時／平成24年11月22日（木）午後3時15分～午後5時15分

2. 場 所／平田総合支所 302号室

3. 出席者／（1）1号委員（団体推薦）

奥山仁委員、伊藤市太委員、菅原律子委員（副会長）、堀弥志男委員、
長谷部耕次委員、加藤勝子委員、庄司美智子委員、土田伸委員・・・計8名

（2）2号委員（識見を有する者）

阿部敬子委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・計1名

（3）3号委員（公募）

石黒由香委員、富樫文雄委員（会長）・・・・・・・・計2名

（4）酒田市平田総合支所

石川忠春支所長兼市民福祉課長、土田瑞穂地域振興課長、
高橋弘建設産業課長、地域振興課 大石充昭課長補佐、
佐藤雄二地域振興主査、小松原毅地域振興主査兼係長、
地域振興係 伊藤芳調整主任・・・・・・・・計7名

出席者合計18名

（5）欠席

①1号委員（団体推薦）

阿曾智子委員、阿曾重雄委員

※阿曾智子委員は、地域協議会に先立って行われた視察研修のみ出席。

②2号委員（識見を有する者）

石黒均委員、阿部彦悦委員・・・・・・・・計4名

4. 次 第／（1）開会

（2）平田地域協議会 会長あいさつ

（3）平田総合支所 支所長あいさつ

(4) 会議録署名委員の選任

(5) 協議

①ひらた生涯学習センターの機能強化と隣接市有地の整備について

(6) 報告

①平成25年度 地域づくり予算の要求状況について

②平成23年度 大雨被害の復旧状況について

(7) 地域課題について

(8) その他

(9) 閉会

5. 会議録／(1) 開会

▶土田地域振興課長

(2) 平田地域協議会 会長あいさつ

▶富樫会長

しらい自然館の視察研修、ご苦労様でした。今回の研修も参考にしながら、様々な視点からご意見をいただきたい。

平田地域の大きな課題として、松山中学校と飛鳥中学校との統合がある。地域の方々や保護者から、いろいろな提案や問題提起がなされている。地域協議会としても、そういったご意見を真摯に受け止め、統合して良かったと思っただけのようにしていきたい。

私が地域を回った際に、地域協議会ではどんなことをやっているのかという話が出ている。委員の皆さんからは、さらに積極的に地域に飛び込んでいただき、そこで出た課題をこの場に持ち込み、議論してもらいたい。特に、団体から推薦されている委員の皆さんには、地域協議会の内容を団体に持ち帰り、組織で討議をしていただくことを当初よりお願いしている。

皆様からは、今後とも委員としての立場、権限、活動についてお考えいただきながら、地域課題の解決に向け共にならばっていくことをお願いし、あいさつとしたい。

(3) 平田総合支所 支所長あいさつ

▶石川支所長

会議に先立っての視察研修、ご苦労様でした。

本日は、生涯学習センターの今後の在り方について、協議いただくことになっている。その参考とするため、今回しらい自然館での視察研修を行った。私にとって参考となったのは、推進協議会なる組織を作り、いろいろな交流メニューを、その組織が引き受ける形で展開していたことである。委員の皆様も、いろいろな受け止め方をされたと思うが、本日の協議の中でご議論いただきたい。

今年は、夏には猛暑が、秋には長雨が続いた。この長雨で、市道鳥海南麓1号線から南麓の団地の方に入る道路の一部が、長さ20メートル、幅3メートルにわたって崩落した。公共災害ということで、災害復旧事業に向かっているが、これからの時期は降雪もあることから、完了は春ごろになる予定である。本日の報告事項には、昨年度の大雨被害の復旧状況もあるが、現在の状況をご報告させていただく。

冬に向け、除雪体制を整えるべく準備をしている。道路の除雪はもちろんだが、この時期一番心配なのは、高齢者の一人暮らしや高齢者世帯の、道路までの除雪と屋根の雪下ろしである。道路から玄関までの除雪は、民生委員から、その方々を一軒一軒回っていただき、必要な方は登録し、地域の皆さんで支援していく手続きを進めている。

今年は大雪になるのではとの話もあり、あらためて自治会長の皆さんに制度をお知らせし、そういった世帯の雪下ろし等については、できるだけ早急に対応できるようにしていきたい。対応できる業者が少ない関係で、毎年雪下ろしまで時間を費やすことから、迅速な対応ができるよう、市としても検討しているところである。

報告事項では、来年度の地域づくり予算の要求状況について説明させていただく。生涯学習センターの機能強化の協議と合わせ、皆さんから多くのご意見をいただきたい。

(4) 会議録署名委員の選任

▶富樫会長

会議録署名委員に、庄司美智子委員を選任いたします。

(5) 協議

①生涯学習センターの機能強化と隣接市有地の整備について

▶土田地域振興課長（資料に沿って説明）

▶菅原副会長

この、生涯学習センターの事業については理解しているし、隣接市有

地が今まで課題になってきたことも承知している。ここが整備された場合、その後の運営については、指定管理になるのか、市直営で運営していくのか教えていただきたい。

▶土田地域振興課長

生涯学習センターの運営体制について、内部で検討はしているが、この方向でという明確なものはまだない。ただ、将来においてこの施設が、地域振興的な役割を担っていくのであれば、市直営より民間を中心に運営していただいた方が、施設の効果をより発揮できるのではないかと考えている。

▶富樫会長

平田町時代には、仁助新田を中心とした中山間部の活性化プランとして、いろいろな提案がなされている。この地域協議会でも、一輪車の練習場の整備について提案されている。

▶堀委員

今回の提案は、生涯学習センターを維持しつつ、規模を拡大していきたいということなのか、それとも施設の位置付けから見直すということか。

▶土田地域振興課長

今回、整備の方向として示した案は、生涯学習センターが持っている特徴を生かした形での整備であり、現在の施設を拡充し、さらなる強化という方向で考えている。

▶阿部委員

ニーズに合わせた整備について検討していくためにも、生涯学習センターの利用状況や宿泊の実績を示してもらいたい。

▶土田地域振興課長

利用の形態としては様々あり、研修や団体の活動のための使用、グループでの屋内運動場の使用のほか、特徴的なのは合宿での使用が多いということである。

その合宿での活用も幅広く、スポーツ少年団や中学校の部活動が多いが、運動だけでなく吹奏楽でもご利用いただいている。少数だが、高校や一般のスポーツ団体からも合宿でご利用いただいている。

平成22年度の数字だが、スポーツ合宿が24団体、48日利用している。スポーツ以外の宿泊研修は、小学校から一般まで33団体、73日の利用があった。宿泊と日帰りも含めた、すべての利用者数は、年間約2万2、3千人といったところである。宿泊の実績については、合宿や宿泊研修での利用状況をまとめた資料について、ただ今配布したい。

▶阿部委員

生涯学習センターについて、利用者や住民などからの「こうであれば

いい」「何が必要だ」といった声は市に届いているのか。

▶土田地域振興課長

ご意見はかなりあると思うが、それをまとめ上げてはいない。今回提案した整備の方向は、利用者や住民からこれまで聞いている意見を参考に、叩き台としてを作成した。

▶庄司委員

宿泊での利用は、年間の3分の1くらいの日数になるとのことだが、他の同じような目的や規模の施設と比べた場合、この利用日数は多いのか、それとも少ない方なのか。

▶土田地域振興課長

合宿や宿泊が可能な公共施設で、同規模の施設の事例を把握していないので、現在のところ比較はしていない。

▶庄司委員

一般的に見て、うまく活用できているというレベルなのか、活用日数が少なくて困るということなのか。

▶土田地域振興課長

私個人の感じ方になるが、しらい自然館と同様に、夏場、特に夏休み期間の7月から8月にかけては、ほとんどの週末に合宿が入り、申し込みがあっても先着順であるため、後から申し込んだ団体は利用できない状況となっている。

秋からは地元のスポーツ少年団など、それなりに宿泊の利用はあるが、頻度は落ちる。冬場はほとんどなく、利用のピークはやはり夏場であると感じている。それ以外の利用については、文化祭などのイベントもあるので、それに合わせた利用者数だと思っている。

▶石黒由香委員

車で20分くらいの距離にある、しらい自然館は、自然体験がメインということであり、スポーツ合宿は行われていないということだったので、同じものではなく、やはりスポーツをメインとした施設にしていくのがいいのではないか。

しらい自然館くらいの料金設定であると、子どもたちの合宿は難しい。また、平田にはほとんど宿泊施設がないため、講師を呼びたい時に苦労している。一般の方も泊まれる施設にしてもらいたい。

生涯学習センターでの合宿については、私たちの団体も何度となく断られていて、ここでの合宿を秋や冬にずらして行っている。地元の他団体からも、なかなか予約がとれないという声を聞いている。使い勝手も良く、安く泊まれるので、遠くからも競って、早い者勝ちで予約しての利用となっている。2団体が泊まれる施設になれば、夏場の利用は確実

に見込めるのではないか。

▶富樫会長

将来的には、公設民営にしていくのか。

▶土田地域振興課長

担当部署間で検討した経緯はあるが、方向の確定までには至っていない。

▶伊藤委員

資料によると1月から3月までは、利用がないということか。

▶土田地域振興課長

合宿、宿泊では利用されていない。

▶伊藤委員

複数の団体が同時に使用できる規模というのを、どのくらいの宿泊人数で想定しているのかは分からないが、利用のピークとなる夏場の土日に2団体が入るくらいの利用で、規模拡大する必要があるのかという印象を受ける。2団体が入れる規模も大事かもしれないが、設備のグレードを上げて、冬場でも利用したくなるような施設にするのが先ではないかと思うが、いかがか。

▶石川支所長

おっしゃるとおりだと思う。ただ、夏場になかなか予約がとれないということにも応えたいということもある。1月から3月に宿泊者がいない要因としては、雪の季節であり、子ども会などのイベントも敬遠していることも考えられる。

だとすれば、たとえばかんじきツアーといった、冬の交流メニューを充実させて、活用を増やすことを考えていく必要がある。そのための運営のやり方として、公設民営という流れで組み立てていく形になるかと考えている。

▶長谷部委員

小学生、中学生の利用状況に野球とサッカーとあるが、生涯学習センターに設備はあるのか。

▶土田地域振興課長

設備はないが、野球とサッカーの団体が、その活動のために施設に宿泊したということである。

▶長谷部委員

時期によっては、申込みを断る場合もあるとのことだが、その断った人数の把握が大事である。利用した人数に断った人数を足すとどのくらいの設備が必要であり、どの程度の利用が見込めるかが分かる。それをつかんでいないので、利用の見込みを議論できない。

陸上競技用100メートル全天候型レーンの整備とあるが、8レーンにするのか9レーンにするのか、レーンだけ整備するのか、付帯設備は必要なのか、それを整備するためにはどのくらいの予算が必要なのか、積算は可能である。

「地域協議会において整備を進めるべきとの意見が出されている」とあるが、地域協議会の重みを、行政ではどうとらえているのか。この要望を実行しようとしたとき、財源の問題となり、これは無理となった時に、それに反抗する権限があるのかといえ、それはない。これは大きな事業であり、土台から作り出していけないと、会議など大変な時間の浪費になってしまう。

生涯学習センターを、合宿や自然体験学習など、教育課程の中での施設とするのか、観光客まで狙うのか。やるからには、さらに議論を深める必要がある。

▶土田地域振興課長

申し込みをお断りした団体数や人数についての数字は、まとめていない。担当職員の報告による、かなり件数が多いといった程度の把握である。

陸上競技用100メートル全天候型レーンの整備については、この地域協議会でもご意見をいただいているが、市長に対しても要望書という形で提出されている。本日は、整備の方向ということで案をお示したところであり、予算の積算はまだ行っていない。

生涯学習センターは、もちろん地域における交流拠点であり、スポーツ合宿、自然体験学習ということに限定せず、隣接市有地と合わせ、幅広い視点から方向性を定めていかなければならないと思っている。

▶石川支所長

地域協議会の役割は、市長に対し、地域振興に関すること、地域づくり予算に関することについて、意見を述べることである。その役割として、平成23年に地域ビジョンを策定し、その中で生涯学習センターの機能強化ということをご提案いただいた。事業の進め方としては、地域ビジョンを策定した地域協議会が、まずは施設の活用や機能強化の方法についてまとめ上げ、市に示し、具体的な事業費の積算はその後になる。

本日お示した案は、これまでにいただいたご意見や要望を基に作成した、あくまでも叩き台である。今後もいろいろな意見をちょうだいし、それをまたご検討いただき、熟度を高めていきたい。今後も、地域課題を市長に報告する場面は出てくると思うので、そこに、より具体的な形のものを入れ込んでいきたい。

この計画については、平田町当時の過疎計画にも仁助新田周辺の整備

として載っており、合併時に策定した新市建設計画にも載っている。ただ、その後の熟度が高まっていないということで、現在の過疎計画においては「今後検討」という位置付けとなっている。事業を進めていくために、まずは過疎計画に事業として盛り込むべく、計画の熟度を高めていく必要がある。

▶長谷部委員

平田地域7千人の総意を受け、地域協議会において実効性のある計画の土台を築いていくために、行政からはさらに精細なデータ作りをやってもらう必要がある。

過疎計画、地域ビジョン、要望書など、様々な形で市には上がっている。しかし、議会と執行部を納得させるだけの要素を持ち合わせないと、時間もかかり、実現の可能性は低くなる。このくらいの長い年月を費やしているわけなので、もうそろそろ答を出そうという、地域協議会としての意思も求められる。我々委員15人が共通認識を持ち、行動をとるべきである。

▶土田地域振興課長

生涯学習センターについて、事務局において利用の実態などデータを整理し、またハード面における整備構想や運営体制についても内部で検討し、それを次回以降の地域協議会でご報告させていただきたい。

▶富樫会長

この件についても、団体を代表する委員の方からは、組織に持ち帰ってご討議いただきたい。識見、公募委員の方からは、市民の声を聴いていただき、住民の意見を行政に反映させるよう進めていきたい。

(6) 報告

①平成25年度 地域づくり予算の要求の状況について

▶土田地域振興課長（資料に沿って説明）

▶高橋建設産業課長（資料に沿って説明）

▶菅原副会長

地域づくり予算の要求状況を聞いて、ホッとした。これまでずっとお願いしてきた、庄内ひらた目ん玉まつりの予算について、増額の要求をしていただき、ありがとうございました。

▶伊藤委員

生涯スポーツ振興事業で、水中ウォーキングという話が出たが、B&G海洋センターのプールの屋根については、どういう計画になっているのか。

▶土田地域振興課長

平成25年度に、屋根をかける支柱の強度を高めるための改修工事を実施すべく、文化スポーツ振興課からB&G財団に対し、補助についての要望を行っているところである。

▶石川支所長

平成25年度の事業として取り組めたとしても、来年度中に屋根をかけた形で使用することは難しい。実質は平成25年度に工事を行い、平成26年度から屋根をかけて利用できるようになるのではないかと。

▶加藤委員

ふれあい支援農道ウォーキング大会が今年度限りということだが、コミュニティ振興会でウォーキングに取り組んでいるところもあり、皆さん楽しみにしながら熱心に参加されている。ウォーキング大会という言葉を生かした形で、参加者が少しでもがんばれるよう、お茶代くらいの予算化はできないか。

▶土田地域振興課長

地域が行っているウォーキング大会について、コミュニティ振興会が行う事業として位置付けをすれば、市からの補助することも可能である。それぞれのコミュニティ振興会に対し、働きかけていただくという方向ではいかがか。

▶加藤委員

健康な方が、自助努力で一生懸命に運動をしている。介護保険も一切使わないで、元気にやっている方たちに、お茶代程度のご褒美があれという話が出たりする。ウォーキング大会への援助という使い方はできないか。

▶土田地域振興課長

地域の行事というよりも、特定の方々やグループでのウォーキングに対する援助という形か。

▶加藤委員

市民が健康でいようとするところへの、何らかのご褒美のようなものを、地域づくり予算の中で何か用意できないか。

▶土田地域振興課長

健康づくりという意味合いでの活動だとすれば、介護予防事業の中で支援する制度があったかと思う。

▶石川支所長

制度の内容について確認したうえで、加藤委員に情報を提供させていただきたい。

②平成23年度 大雨被害の復旧状況について

▶高橋建設産業課長（資料に沿って説明）

▶長谷部委員

田沢新田の急傾斜地で、県で「雨が降ったら逃げてください」と家族に言っているところがあるが、その場所か。

▶高橋建設産業課長

長谷部委員がおっしゃる場所については、県でも現場を確認したうえで措置が必要と判断し、県単独事業として予算要求に向かうという状況である。

▶長谷部委員

この世帯は一度崩れて家屋に土が当たっており、「逃げてくれ」と言われて怯えている。平成25年度事業として予算要求されているが、いつごろの対応になるのか。

▶高橋建設産業課長

県も現場を見て措置の必要性を認識し、予算要求をするということなので、何とか認めてもらえるよう強くお願いしていきたい。

▶長谷部委員

一日も早くこの状況が解消するよう、努力していただきたい。

▶富樫会長

次の案件に入る。(7) 地域課題、(8) その他は一緒に協議する。

(7) 地域課題

(8) その他

▶奥山委員

平成25年度も、地域協議会運営事業として予算が要求されており、この制度は続くのだと思う。

地域協議会の委員は、10の団体から代表として推薦され、私は田沢コミュニティ振興会の代表となっている。コミュニティ振興会が発足した当初、会長は忙しくなるということで、副会長であった私が委員として出てきた。

しかし、地域の実情を良く分かっているのはコミュニティ振興会のトップであると思うので、10人の代表は、できればその団体のトップが望ましいというような文言を、来年度の改選に向けて入れたらどうか。

▶土田地域振興課長

地域協議会は平成25年度も継続される。平田だけでなく他の地域においても、地域課題はまだまだあり、よろしく願いいたします。委員の推薦については、次回の地域協議会でお話させていただきたい。

▶土田委員

飛鳥中学校の統合について、前回の地域協議会に教育委員会からも出席いただき、私もお意見を申し上げた。その後についてご報告したい。

9月5日、教育委員会に対し、飛鳥中学校PTAの総意として要望書を提出した。その内容は、「現在ある既存の体育館を残してほしい」

「体育館を残せないのであれば、新しく建てる体育館を一部2階建てにしてほしい」「現在ある校内の東西を結ぶ連絡道路は、利便性が高いので残してほしい」等である。

その後、教育委員会から回答書が届いたが、こうした要望については受けられないという内容であった。さらにその後、また教育委員会から話があったが、その時には、体育館を一部2階建てにしてもいい、連絡道路を作ってもいいということであった。

このことは飛鳥中学校単独ではなく、松山中学校とも一緒に話し合っており、この場でご報告したい。

▶富樫会長

土田委員からの報告に関し、飛鳥中学校PTAから要望と、教育委員会からの回答を委員全員に出していただき、必要であれば皆さんで議論したい。要望と回答については、事務局から委員に送付してもらいたい。

(9) 閉会

▶菅原律子委員

長時間に渡っての討議、大変ご苦労様でした。視察研修も素晴らしいものであった。前段の視察研修も踏まえ、平田に合った施設づくりということで、本日は十分に話し合われたと思っている。

もっと平田を元気にしていこうという、私たちが作った平田地域ビジョンにも目を通しながら、こういうまちづくり、平田づくりをしていかなければならないということを常に考え、勉強しながら、次回の地域協議会に持っていきたい。

慎重審議、ありがとうございました。第3回目の地域協議会を、閉会いたします。